

待鳳だより

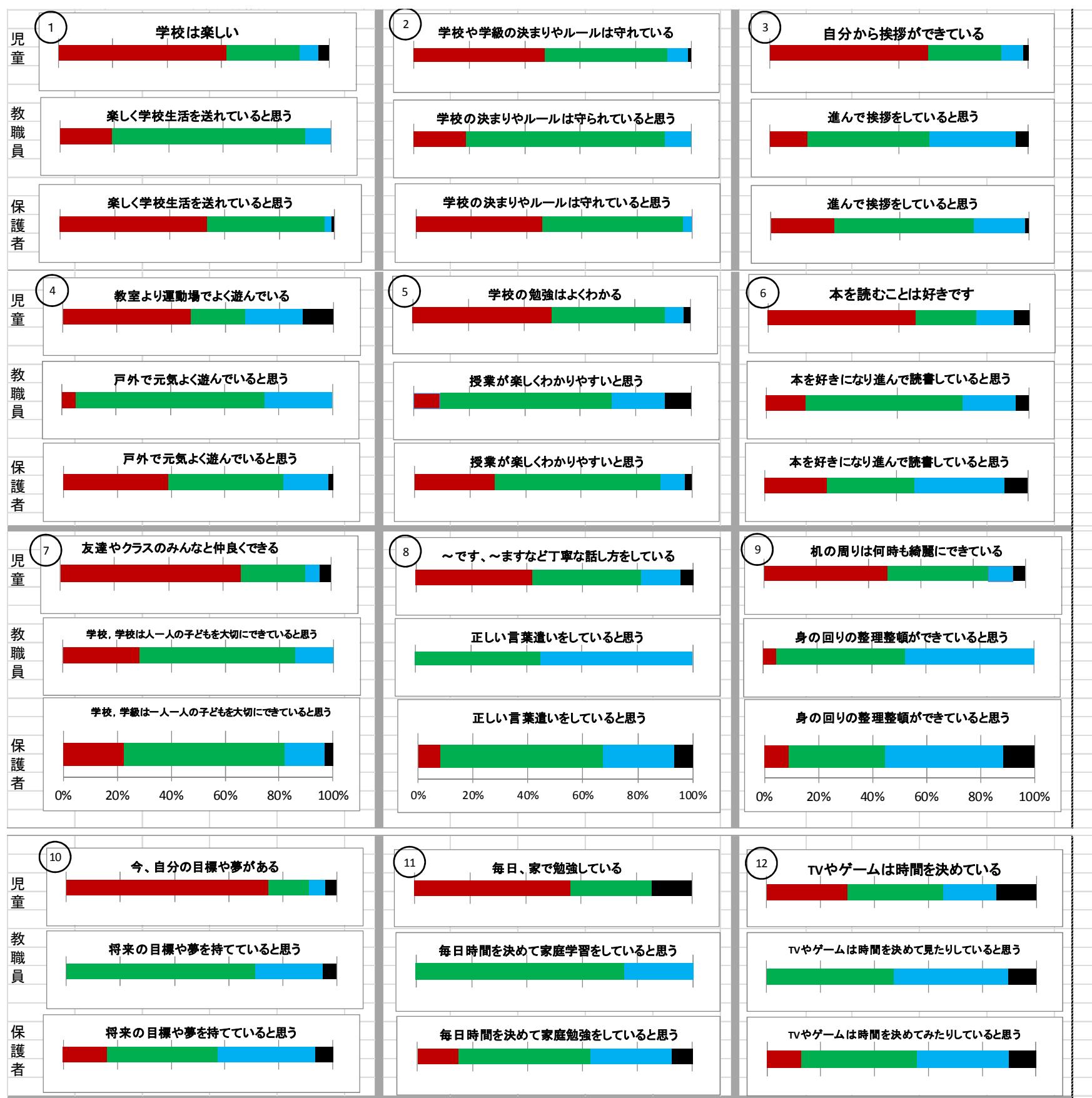
(特別号)



平成 26 年 10 月 14 日
京都市立待鳳小学校
校長 中野 洋

平成 26 年度の前期がこの 3 日に終了し、6 日からは後期の取組がスタートしました。先日、前期の取組を振り返り、児童・保護者・教職員に行いましたアンケート調査をもとに学校運営協議会で協議していただきました。前期の振り返りをもとに、後期の取組をより充実させていきたいと考えております。保護者の皆様、地域の皆様には、今後とも、本校教育の推進にご理解とご支援、ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

児童・教職員・保護者アンケート





<アンケート結果について>

今回の結果と前回(25年度末調査)とを比べ、違いが認められた所が何点かありました。評価が良くなかった点は、⑦「仲良くできる」の児童の評価、⑨「読書について」の保護者・教職員の評価です。反対に、評価が下がった点は、③「挨拶をする」の保護者の評価、⑤「状業が分かりやすい」の保護者の評価、⑧「言葉遣い」の保護者の評価、⑩「整理整頓をする」の保護者・教職員の評価、⑪「目標や夢をもつ」の教職員の評価でした。

また、評価が高い項目は、①「学校は楽しい」、②「決まりやルールを守る」、⑦「みんなと仲良くする」、⑩「安全、安心が守れている」でした。反対に、評価が低い項目は、⑧「正しい言葉遣い」の保護者評価、⑨「整理整頓をする」の保護者・教職員評価、⑪「目標や夢をもつ」の教職員評価、⑫「早寝の習慣」の保護者評価でした。

<学校運営協議会理事の方からのご意見>

- ・家庭学習の時間が少ないのは、土日など、塾以外の習い事に通っている場合や、塾だけ行っていればいいのではないかという感覚が影響しているのではないだろうか。一方で、家庭学習として与える課題の量や内容、与え方にも、今ひとつ工夫がいるのではないだろうか。さらに、TVやゲーム、携帯(メールなど)に時間がとられて、家で学習する時間が少なくなっているとすれば問題だと思う。家でしっかり復習することなど、家庭学習の大切さを子どもたちに知らせて取り組ませることも必要ではないだろうか。
- ・子どもと教師の評価が大きくずれている点については、教師が、子どもの様子をしっかりとつかみ切れていない面があるからではないだろうか。日記、作文、日常の会話など、先生が子どもの様子や心の中をつかむ取組を進めていくことが必要だろう。
- ・アンケートや学力調査で明らかになっている本校の子どもたちの課題について、しっかりと取組を進めていくことが必要である。そのために必要な点について、学校と家庭が協力していくことが大切である。